

今どきの気になる日本語、問題な日本語

－「令和4年度 すぎと町民大学」講義より－

The Problematic Japanese Language Words That Confuse Us Today:
A Lecture in "2022 Sugito Town Citizen's College"

山本 幸子¹⁾
Yukiko YAMAMOTO

概要

本稿は、筆者が埼玉県杉戸町の「令和4年度 すぎと町民大学」から依頼され、令和5年2月18日に行った「今どきの気になる日本語、問題な日本語」と題する講義を文章化したものである。この講義では、①TV番組でもよく耳にする敬語表現として気になる問題な日本語、②本学の学生が使用する気になる日本語、③一般的に意味が誤用されやすいことわざ、④今どきの若者言葉、の順に列挙し、どうしてこれらの日本語が問題なのか問題点を共有しながら受講生たちと議論した。

キーワード：日本語，問題な，TV番組，敬語表現，若者言葉，ことわざ，誤用

Abstract

This paper is a written summary of a lecture entitled "The Problematic Japanese Language Words That Confuse Us Today," given on February 18, 2023, at the invitation of the "2022 Sugito Town Citizen College" in Sugito Town, Saitama Prefecture. The following areas are discussed: (1) problematic language that is often heard on TV programs as honorific expressions; (2) problematic words and language used by university students; (3) proverbs that are misunderstood and misused in general conversation; and (4) young people's language today. Included is the highlights of the discussion with the audience that followed.

Keywords : Japanese language, problematic, TV programs, honorific expressions, young people's language, proverbs, misunderstood and misused

1. TV番組でもよく耳にする敬語表現として気になる問題な日本語

1.1 「やられる」

「やられる」を日本語話者はどのような日本語表現として捉え使っているのだろうか。筆者が例として思い浮かべるのは、時代劇で袈裟懸けに斬られたエキストラの侍がとっさに発する「うう、殺られたっ。ㇿ」という断末魔の叫びであり、ゲームやスポーツの試合で負けたときに思わず発する「やられたっ。ㇿ」である。この「れる・られる」の助動詞は受身の意味で使われている。これら二つの例は**正用**である。

それに対し今回取り上げる「やられる」の**問題な例**は、尊敬の意味の助動詞「れる・られる」を用いた例

¹⁾ 共栄大学 国際経営学部

である。民法テレビ局のワイドショーなどの50代のMC(メイン・キャスター)や20代のサブ・アナウンサーなどのいわゆるプロの日本語話者が頻りにTV番組で話してきた誤用例であり、表向きには今まであまり問題視されてこなかった問題な日本語である。しかしインターネット上では「問題な日本語」²⁾として10年以上前からしばしば指摘されている。以下に、その具体的な**問題な例**と**正用例**を記述する。

問題な例 「(インタビュー・コーナーで)社長さんは、何(の仕事)を**やられている**んですか。↗」

正用例① 「(筆者作成による例)社長さんは、どのようなお仕事を**なさっている**んですか。↗」

正用例② 「(筆者作成による例)社長さんは、どのようなお仕事を**されている**んですか。↗」

この「やる」という動詞は「する(to do)」という意味で用いているのだろうが、もともと「やる(to give)」は(えさをやる)のように「上」の身分の者→「下」の身分の者への物の移動を表す意味の語から転じた語彙(仮に俗語的語彙と名付ける)であるので、(俗語的語彙「やる」×(カク) 尊敬の助動詞「れる・られる)」という組み合わせは尊敬語の敬語表現としては矛盾をはらんでいて成立しない。したがって誤用と言える。

上記に**正用例①・②**を記述したが「**なさる**」「**される**」という正しい尊敬語が存在するにもかかわらず、誤用と言える「やられる」が現在こんなにも増殖しているのは、民法テレビ局アナウンサーが使用しそれを一般人が規範と見なし模倣しているからだろうか。それとも何か使いやすいなどのほかの理由があるからなのか。今では民法テレビ局アナウンサーのみならず一般人も頻りに使用している。しかしながらNHK出身のアナウンサーはよく訓練されているからなのか、理由は定かではないがこの表現を使う場面に遭遇したことは筆者はまだない。この問題な表現は組み合わせに矛盾をはらむ敬語表現の誤用であり、できるなら早く衰退してほしい表現であるが今なおよく耳にしそのたびに困惑する表現である。

ちなみに「やる(to do)」を用いた日本語表現「**やっている**」は「やる」がカジュアルな意味の語彙なので敬語表現ではないが、同僚や友人への質問で「どう、うまく**やって**(い)る。↗」は問題なく正しい日本語である。

1.2 「～ております」

問題な例 (NHKのレポーターが)「この給食センターでは自校式を採用**しております**。↘」

正用例 (筆者作成による例)「この給食センターでは自校式を採用**しています**。↘」

「～ております」は謙譲を表す補助動詞の働きを持つ表現であり、話し手側が自分の動作(行為)を謙譲するときに用いる。(ただしここで取り扱う「おる」は古語や方言ではなく現代日本語である。)この問題例はNHKの朝番組で耳にした。ここで自校式を採用しているのは給食センターという取材先の人々であり、NHK側の人々ではない。したがって自分側の謙譲の意味を表す「～ております」は使えず「～ています」という状況の継続を示す表現を使うのが正しいはずなのだが、このほかにもすべてを記録しているわけではないにしろ最近このような例をよく耳にする。

形が似た表現であるのでつい連続して使っているうちに間違ってしまったようにも思える。また、謙譲語さえ使っておけば無難であるというような傾向が日本全体に溢れ返っているからなのかとも感じる。前述の「やられる」表現をNHKの現アナウンサー、元アナウンサーが使用している例は少なくとも私は一度も聞いていない。しかしこの「～ております」表現は民法局よりもむしろNHKの中継レポーターから耳にすることが多いのである。それが不思議で「NHKよ、お前もか。」という心境であった。ここまでの内容が、講義のなかで語ったことである。

しかし最近この理由が少しわかることとなった。NHK放送文化研究所では文化庁の『敬語の指針』(2007)で示された「謙譲語Ⅱ」についての説明を引用しその考え方を拡張し「～ております」を説明していた。下

記のようにNHK放送文化研究所が「～ております」の使い方に関して、Q & A形式による「ことば放送現場の疑問・視聴者の疑問」というコーナーで公開している（2016. 9. 1 公開）。以下にそのQ & Aの内容を引用する。

「Q **「暑い日が続いております」**という言い方をよく耳にします。この場合、自分や自分側の人物に関する動作でもないのに、謙譲語の「おります」を使っても問題はないですか？

A 問題ありません。「おります」は、「いる」の謙譲語「おる」に、丁寧語の「ます」が付いた形ですが、「～て（で）おります」の形で、**聞き手に対して丁重さを示すために、「第三者」や「事物」（この場合は、「気候」）について使うことがあります。（※太字は筆者による）**

「暑い日が続いております」という質問者の例は、暑中見舞いなどの手紙で気候（時候）の挨拶としてよく用いられ、ビジネス文書では慣用的な表現である。しかしそれはビジネス・レターなどで用いられる決まり文句として受け入れられている表現でありその本来の意味が問われることはほとんどない。したがって、この例一つで聞き手に対する丁重さを示すときはいつも「～ております」を使用してよいという根拠にはならない。

続けてNHK放送文化研究所は＜解説＞のなかで文化庁の『敬語の指針』（2007）を引用しながら、次のように述べているので、全文を引用しておく。

「謙譲語」は、敬語を「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」と3つに分類する場合の1つとして、学校教育などでは、「動作主を低く待遇するもの」とされてきました。しかし、この「謙譲語」のなかには、実は2つの種類のものが含まれており（『日本語大辞典』参照）、文化庁の『敬語の指針』（2007年）では、「謙譲語」を、「謙譲語Ⅰ」と「謙譲語Ⅱ」という2種類に分けて説明しています。

まず「謙譲語Ⅰ」は、「自分側から相手側又は第三者に向かう行為・ものごとなどについて、その向かう先の人物を立てて述べるもの」で、「先生のところに伺いたいのですが・・・」「先生を**ご案内する**」などと述べる場合の「伺う」「ご案内する」のような使い方などがこれに当たります。「行く」「案内する」の代わりに「伺う」「ご案内する」を使うことで、「先生」を立てる言い方になっています。

一方、「謙譲語Ⅱ」は、「自分側の行為・ものごとなどを、話や文章の相手に対して**丁重に述べるもの**」で、「明日から海外へ**参ります**」「きょうは家**におります**」の「参る」「おる」などがこれに当たります。「行く」「居る」のかわりに「参る」「おる」を使うことで、自分の行為を、聞き手（読み手）に対して改まった言い方で述べることになり、これによって丁重さを示す言い方です。「謙譲語Ⅰ」が行為の向かう先を立てる言い方なのに対して、「謙譲語Ⅱ」はあくまでも**聞き手（読み手）に対して丁重さを示す敬語である**ことが大きな違いです。また、前出の「きょうは家**におります**」の「おります」は、自分の行為ですが、「謙譲語Ⅱ」には、**自分の行為でなく「第三者（立てなくても失礼にあたらぬ人物）」や「事物」について使う場合もあります**。「子どもが**大勢帰って参りました**」「**バスが参ります**」のような場合です。ご質問の「暑い日が続いております」もこれにあたります。いずれも聞き手（読み手）に対して丁重に言いたいときに使われます。こうした「謙譲語Ⅱ」の使い方は、「謙譲語Ⅰ」の使い方と分けて捉えることが必要です。

ただ、天気予報やニュースなど、客観的に伝えるのがふさわしい場面では、敬語を使わず「～ています」とするほうがすっきりします。一方、キャスターやリポーターが画面に顔を出して視聴者に呼び掛けるような場面では、「～ております」のほうが丁寧な印象になります。放送では、番組・ニュースの性格や目的によって、使い分けをすることも考えられるでしょう。（※太字は筆者による）」

以上の引用でわかる通り「～ております」の「～」部分の説明はNHK放送文化研究所が文化庁の『敬語の指針』に付け加えたところ（太字部分）である。しかし文化庁が説明する「謙譲語Ⅱ」の例には補助動詞

としての「～ております」の例は含まれていない。「子どもが大勢帰って参りました」「バスが参ります」のみである。

したがってNHK放送文化研究所の主張の根拠としては弱い。

この一つ目の用例についても限定的にしか用いない例だと違和感を持っていたところ、直近の文化庁の『敬語の指針』³⁾では用例が「向こうから子供たちが大勢参りました。」「あ、バスが参りました。」「夜も更けて参りました。」の3つに変更され、もとの一つ目の用例が削除されていたことがわかった。そのためNHK放送文化研究所の主張の前提および根拠はさらに弱くなった。

まず文化庁が謙譲に加え第三者や事物もよしとする謙譲語Ⅱの補助動詞の例は「～て参る」だけである。また補助動詞の例も「夜も更けて参りました。」というドラマのナレーションに使われるような無難な慣用的表現の用例だけに今では変更されている。したがって「～ております」の「～」部分が自分側の謙譲だけでなく第三者や事物もよしとするのは文化庁の『敬語の指針』の拡大解釈である。「暑い日が続いております」は慣用的表現として許容されているだけであり、「～」の内容を謙譲以外の第三者や事物のすべての用例にまで拡張することには無理がある。しかしこのNHK放送文化研究所の見解がここ数年のNHK中継レポーターの「～ております」の多用に影響しているのではないか。謙譲および第三者や事物すべてよしと解釈するならば何にでも「～ております」が付けられてしまうだろう。その結果が筆者の**問題な例**とする誤用につながったのではないか。

つぎに「～ています」が「すっきり」と感じられたと書いてあるが「すっきり」というあいまいな擬態語で示していることも問題だが、「～ています」を使うべきところで意味的に正しく使用したからこそ「すっきり」と感じられたに過ぎない。それよりもNHKでアナウンサーやレポーターが天気予報やニュースなどの場面と視聴者に呼びかける場面とで「～ています」と「～ております」を意識的に使い分けるよう指導されているとしたら、それが**誤用**を呼び込むことになった一番の原因ではないかと思う。一般人ならば意味的な正しさや表現のふさわしさなどについてそれほど意識せず表現を選択するかもしれないが、プロのアナウンサーならその日本語表現が正しいか正しくないか一つひとつ吟味し判断して使用するのが当然だろう。「～」の内容によっては「～ています」「～ております」とも問題なく使えることもあるが「～ております」に筆者が違和感をおぼえた1.2冒頭のような**問題な例**をプロのアナウンサーが違和感を持たずに発しているとしたら大きな問題である。プロならTV番組においてその内容を正しい日本語で視聴者に伝えていくことが職業的に一義的に求められることで、視聴者に対する丁寧さを示すことは付随的なことだ。少なくとも筆者は「～ています」の正しい使用を耳にして丁寧さが少ないと感じたことはない。視聴者への丁寧さを示すためだけに「～ております」を視聴者の耳につくほど過剰に多用すること、それが奨励されていることがもしあるとしたらそれこそ問題だ。それは発話をむしろ不自然にすることになりかねず**誤用**を生むもととなるだけでなく、視聴者に間違った日本語を流布させることにもつながる。「～ております」の**問題な例**の安易な多用がNHK中継レポーターの発話に発端があると推定できたので今後も「～ております」を注視していきたい。

1.3 「～させていただきます」

問題な例 (本学学生の例)「ただ今よりプレゼン大会を開催させていただきます。㇏」

正用例 (筆者作成による例)「ただ今よりプレゼン大会を開催いたします。㇏」

謙譲語さえ使っておけば無難であるというような傾向は、前述の「～ております」表現の問題な例でも感じていたが、「～させていただきます」表現においても同様の傾向が見受けられる。一時期は「～させていただきます」症候群と揶揄されたので衰退してしまうものと思われていたが、この「～させていただきます」という謙譲表現はここ数十年の間に主にビジネスマンからの使用から一般人にまで浸透し日本全体にはびこっているという印象である。「～させていただきます」表現は、意味的に考えると相手の許可を得て何かをするときに用い

る表現なのだが、冒頭の問題な例は本学の大学生が使用していた例で、大会の開始を宣言するような相手の許可を取る必要のない場合でもつい使用してしまっている。大会の開始を宣言するときなら「～いたします」という謙譲表現や「～します」という丁寧表現が本来は適切な表現と言えるのだが、もはやどんなときでも「～させていただく」という過剰とも言える謙譲表現が頻用される事態となっている。

『「させていただく」の語用論』の著者である椎名美智⁴⁾によると、「～させていただく」表現はさかのぼると明治維新の頃から使われるようになったとのことで19世紀後半に誕生し「敬意のインフレーション」のごとく使われるようになったそう。それに反してそれまで使用されていた「～いたします」は「偉そうに聞こえる」「上から目線的」などの理由と「敬意漸減の法則」によりあまり使われなくなり同様に「さしあげる」も使用が減っていき、現在は「～させていただく」表現が最盛期となっているとのことである。

椎名は、どんな「～させていただく」表現も面白いがスタンスで受け止めているが、政治家の「最大限努力させていただく」などの表現では努力はひとに許可されてするものではないのだから「最大限努力します」と言い切っしてほしいし、駅で「飲食を禁止させていただく」という表現をよく見るが決定権が自分側にあるのに相手側にあるかのような偽善を感じるので「申し訳ありませんが、ここでは飲食できません」と表現してほしいと思うそう。そのようなときには「～させていただく」表現に対して違和感、間違いと感ずることがあるとのことである。

また椎名の指摘で興味深いと感じたのは、主語が「私」である「～させていただく」敬語表現が増え「他者」が主語となる「くださる」敬語表現が少なくなりつつある昨今、どんどん「他者」を介在させないで「他者」から距離を取る方向に若者たちの敬語表現が振れていること、安全な「～させていただく」シェルターに入り込み「私は丁寧でちゃんとしたひとです」というマーカーとして「～させていただく」表現を使い続けることに対して懸念を示しているというところだ。これは芸能人が記者発表するとき「結婚させていただく」「解散させていただく」などのメッセージが散見されることにも通じていて、できるだけ傷つくこと傷つけることを恐れSNS上で叩かれることや炎上を避け丁寧であろうとする傾向が若者に強くあるから「～させていただく」表現がこれほど重用されているのだらうと椎名は分析している。しかしもう少し自分の「顔」や「強い自分の意志」を見せて「結婚します」「解散します」と表現してもいいのではなかろうかとも椎名は指摘している。

椎名の懸念、分析、指摘のように、若者のこのような傾向が続く限り「～させていただく」表現はこれからも隆盛を極め続けるのかもしれない。

²⁾ 「やられる」は正しい敬語？ 〈<https://oshiete.goo.ne.jp/qa/7385057.html>〉 (2012-03-26)

³⁾ 文化庁 HP > 政策について > 国語施策・日本語教育 > 国語施策 > 敬語おもしろ相談室 > 第二話「敬語の基本」 > 第二話「敬語の基本」解説 > 【3】 謙譲語 II (丁寧語) (「参る・申す」型) (2023-11-05) 〈https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/keigo/chapter2/detail.html〉

⁴⁾ 椎名美智, 『「させていただく」の語用論 人はなぜ使いたくなるのか』, ひつじ書房, 2021

2. 本学の学生が使用する気になる日本語

2.1 「知れる」

学生受講評価アンケートで、数年前より以下のような表現が見受けられるようになった。

問題な例 (本学学生受講評価アンケートの例) 「この授業で日本語のいろいろが知れた。↘」

正用例 (筆者作成による例) 「この授業で日本語のいろいろがわかった。↘ / を知ることができた。↘」

以上の例は、学生が最近の数年間で多用している自動詞・他動詞を混用した問題な日本語の例である。ここで表記のよく似た動詞として知られる二つの動詞を下記に示すので、用例を見比べてみよう。

◆**五段動詞「知る」他動詞**→「あの事件はよく**知ら**れている。▽」(「知る」未然形+助動詞・受身「れる」連用形)

◆**下一段動詞「知れる」自動詞**→「あの人の名は世間**に知れ**ている。」(「知れる」連用形)

問題な例は、先述したように五段動詞「知る(他動詞)」と下一段動詞「知れる(自動詞)」を混用した誤用の例であることがわかる。「知る」は目的語について能動的な意味を有する他動詞でありそれを受身にした表現と、学習を通さずとも自然に「知れる」という意味の自動詞を用いた表現とでは当然意味が異なる。したがって受講評価アンケートのように「知れる」を使用することは**誤用**と言える。この表現は数年前の本学の受講評価アンケートから学生に頻繁に用いられるようになってきた。より短いから選ばれた語なのかもしれないが、若者を中心に最近インターネットのコメント欄などでよく見られる。そこから流布してきたのかもしれない。フロアの受講生(30代~60代、10名)にも問うたが全員がこれを**誤用**であると判断した。

3. 一般的に意味が誤用されやすいことわざ

3.1 「君子豹変す」

ここからは、意味が誤用されやすいことわざ3つについて『国語力検定テキスト』⁵⁾より引用しながら紹介し私見も付け加える。

まず一つ目の意味が誤用されやすいことわざとして「君子豹変す」を取り上げる。このことわざは、中国の古典である「易経」の「君子豹変、小人革面」が出典である。

【**正用**】は「君子は時代の流れに応じて完全に性格や態度を改める(あるいは過ちがあればすぐにはっきりと改める)が、小人(徳も教養もない人)は表面的なものだけ改める。」という意味で用いる。

しかし世間に流布している【**誤用**】には「君子(徳と教養を兼ね備えた紳士)が突然悪人になる」といった意味で使われる場合がある。徳のある紳士が突然に悪く変わるという意味はもともとない。しかし今では現代人が裏切りや豹変を繰り返すような世の中になってしまったからか、このような誤用が生じるようになったようだ。

3.2 「情けはひとのためならず」

二つ目の意味が誤用されやすいことわざとして「情けはひとのためならず」を取り上げる。

【**正用**】は、本来「ひとに情けをかけておくと、それがめぐりめぐって結局は自分のためにもなる。だから情けをかけるべきだ」という人間同士の絆の尊さを訴えるという意味がある。筆者は学生時代「他人」と書いて「ひと」と読み「他人事」と書いて「ひとごと」と読むのだと国語の教師に教わった。そのため「他人(ひと)⇔自分」の図式で考えることができ、このことわざで誤用をすることはなかった。

しかし今の教育では国語辞典で「他人」と書くと「たにん」と読ませてしまうし、「人」と書くと「ひと」と読ませてしまう。その結果として簡単に「ひと」を「人、個人」とだけに解釈してしまう。教えるべき必要なものまでも削ってしまった今の義務教育のカリキュラムや指導要領などの背景が【**誤用**】を生む原因となっているのだろうか。そのためか今では「ひとに情けをかけるのは、結局そのひとのためにならない。だから情けをかけるべきではない」という【**誤用**】として広く流布しているようだ。ある意味クールでドライな現代の非情性が投影されているのかもしれない。

3.3 「他山の石」

三つ目の意味が誤用されやすいことわざとして「他山の石」を取り上げる。

【正用】は、本来は「他人の誤った行いやことばが自分の反省の材料になる」という意味で「反面教師」と同じような意味となる。決して「人々の模範」という意味ではない。

しかし、昔、大学を卒業したばかりのころ結婚披露宴に出席して新郎をほめたたえる意味で「〇〇さんをお山の石として接してまいりました」と「人々の模範」という意味で初老の紳士がスピーチをしたのを聞き驚いたことがある。

このように「人々の模範」の意味で使うことはもちろん【誤用】である。結婚披露宴のスピーチに使うときは慎重に扱うべきことわざである。

ところでこの結婚披露宴に出席していた人々は誤用であると理解していたのか、それとも誤用とわかっても注意することができなかつたのか、今となっては定かではない。ひょっとしたら世間の多くが誤解していることわざなのかもしれない。

⁵⁾ 国語力研究所、『国語力検定テキスト』分野別問題集「読む力」、Z会、2009

4. 今どきの若者言葉

(A) 『2022 若者流行語』(公開日 2022. 06. 13) (最終更新日 2022-09-15)

(B) 『フイズキャスル百科事典【若者言葉一覧 94 選】令和・平成の最新の新語』(公開日 2022. 09. 28)

(最終更新日 2023-01-19)

この二つの資料で(A)には13語の若者言葉が紹介されていて数は少ないながらそれぞれ意味だけでなく会話形の用例が付いているので紹介がしやすかった。また(B)には94語の若者言葉が紹介されていて(A)の若者言葉がほとんど含まれていたが語数が多いだけに説明は意味だけで用例は付いていなかった。

そこで講義では主に(A)から引用した若者言葉についてまず取り上げることとした。(A)で取り上げられた若者言葉は以下の13語である。①〇〇しか勝たん ②チルする ③アセアセ ④きまZ ⑤それな ⑥リムル ⑦草 ⑧ワンチャン ⑨エモい ⑩デイスる ⑪タピる ⑫ぴえん ⑬マジ卍

このなかで②、④、⑥、⑧、⑨、⑩、⑪は語源が英語などを想起させるカタカナ語やアルファベットの組合せであり、筆者には「チルする(chill outからのんびりする)」「タピる(タピオカを飲む)」などを除きほとんどがもとの英語などから意味や品詞を容易に推測できるものが多かった。語の成り立ちとしても外来語を日本語に取り入れる日本語の本来の手法であり文法を逸脱するほど特殊なものではなかった。受講生からはインターネット時代を反映してかLINE用語やメール用語として発達したと思われる⑦草⑫ぴえん⑬マジ卍などについて今どきの若者言葉としてすでに知っているという声上がり、そこが今どきの若者言葉の特徴なのだ認識できた。考えてみればそのほかの語も①以外は非常に短い語が多く若者がLINE用語やメール用語として容易に入力できることを意識して作った語であると推測できる。すなわち今どきの若者言葉の特徴の一つがインターネット、LINE、メールと密接に結びついて発達してきたものだということがわかる。

次に(B)の資料にあった「親ガチャ」という若者言葉に受講生の耳目が集まった。94語が収集されたなかでほかの語は何ということのない若者言葉ばかりであったがこの語は日本の今の社会の暗い面が反映され自嘲的な若者の叫びとも言えるような語であったからだろう。また「推し」については受講生から最近非常によく耳にする語であり自分自身でも使うことがあるという声も上がった。この「推し」については最近の文化庁の調査⁶⁾によればすでに82%が他のひとが使うことが気にならないという結果もある。

自分の若かった時代にもさまざまな若者言葉が生まれては消えていったが、こうした今どきの若者言葉の

なかで一体どの語が日常語として生き残っていくのか社会言語学の観点からも興味深いものがある。

6) 気になる? 気にならない? 文化庁が新しいことばの使い方を調査

(<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20230929/k10014210671000.html>) (2023-9-23)

5. まとめ

以上のことから「今どきの気になる日本語、問題な日本語」は次のようにまとめられる。

まず、半世紀前には日本語話者の確実なロールモデルとして尊敬される存在であったテレビ局アナウンサーがTV番組で話す日本語でさえ現在の日本では正しいとは限らなくなっているという現実だ。そのために日本語の正しい敬語表現が一般人に流布されなくなってきた。その例の一つとして「やられる」表現があり、10年ほど前からインターネット上で一般視聴者からの疑問の声が上がっていたにもかかわらず民放アナウンサーを中心としてこの表現を民法テレビ番組で使い続けている。明らかに誤用の尊敬表現であることは間違いないので、これは大きな問題である。

また敬語表現全体の大きな傾向として、謙譲表現が過剰に日本に蔓延しているという現実もある。その例として、ビジネスマンや若者を中心に用いられ始めたと思われる「～させていただく」表現や民放アナウンサーにはもちろんNHKレポーターにさえも多用されもしかしたらNHKでは視聴者への親しみやすい呼びかけの語としてむしろ使用を推奨されているかもしれない「～ております」表現などの増大である。「～させていただく」はすでに社会全体に定着する勢いであるし、「～ております」に至っては「～」部分の基準が今ではゆるゆるとなり視聴者への丁重ささえ添えられるならばもはや細かい意味など問わないという姿勢さえ感じられる。新しい新鮮な表現を人々が求めるのは時代の常だろうが今の時代こうまで謙譲表現を駆使してへりくだらなければならぬ理由がはたしてどこにあるのだろうか。「～させていただく」「～ております」などの謙譲表現がわれわれの周囲を席卷しているのはもはや紛れもない事実である。インターネット上の著名芸能人たちのブログのコメント欄が容易に炎上することなども起因しているのかもしれない。炎上を恐れるあまりに過剰なへりくだり表現を用い「結婚させていただく」とか「解散させていただく」などと発表しているうちにいつしかそれが著名芸能人の自己防衛的な習慣となりそれが一般人へも及んできているのだろう。

大昔から意味の変わることがなかった「ことわざ・慣用句」でさえも時代が進むうちに誤用が正用にとって代わられることがある。ここで取り上げた3つのことわざは今はまだ正用として通用しているが、誤用の意味は現代という時代の厳しさのせいより辛辣な意味を含むように変化したように感じる。そしていつの日かこれらのことわざも誤用が正用となる日がくるのかもしれない。

今どきの若者言葉も昔とは形を異にしているが、LINEやメール入力のためにますます短縮化され英語とカタカナ語を含んだ隠語のような様相を呈している。しかし意味的には仲間内のやりとりのための他愛ない語が多いと感じるところは従来の若者言葉と変わらないところでもある。

以上のように日本語に限らず言語は時代とともに変わっていくものである。ところで内側からのこのような日本語の変化を見てきて世界のなかでの現在の日本語の立ち位置がどうであるのかが気にかかった。

日本語の「公用語人口」⁷⁾は世界11位で2013年から2022年までに6,000万人増えたが順位は11位と大きな変化はないが、「インターネットユーザー人口」⁸⁾は2013年こそ4位であったが2020年には人数こそ2倍に増えたものの8位へと順位を下げている。地理、経済、コミュニケーション、知識/メディア、外交、の5つのポイントを数値化して言語を分析した「世界でもっとも影響力のある言語ランキングTOP10」⁹⁾での日本語の総合的順位は8位だという。このランキングで「世界の人口の半分はたった15種類の言語を話して」いるだけと説明しているので、日本語の立ち位置はちょうど世界の主要な言語のなかでは中位とい

うことになるだろう。

このような日本語の立ち位置にあって、世界に向けての言語政策を考える文化庁や正しい日本語を伝える立場の各TV局は日本語をどう導こうとしているのだろうか。言語政策として日本語話者やインターネットユーザー人口の数をただ増やせばよいというわけでもないだろうが、文化庁には共通認識の通った日本語のルールを提示すること、各TV局には一般人のロールモデルとなるような正しい日本語を使用できるプロの話し手を養成することを望む。それが誤用を流布させないことへの早道である。誤用にいちいち目くじらを立てるつもりはないが学生たちはどこかで身につけた誤用の日本語を使い「問題な日本語」であるとは夢にも思わなかったと様に言う。この先日本語がどこへ流れどこへ行き着くのか筆者も皆目見当のつかない未知の世界であるが、これから先も日本語の変化を追い続けていこうと思う。

7) 世界の言語ランキング（公用語からみた人口）

〈<https://japan.wipgroup.com/media/language-population>〉（2022-7-31）

8) 世界の言語ランキング（インターネット上の言語使用人口）

〈<https://japan.wipgroup.com/media/language-population>〉（2020-3-31）

9) 世界でもっとも影響力のある言語ランキング TOP10

〈<https://japan.wipgroup.com/media/language-ranking>〉（2016）

引用文献・参考文献

1. 図書

椎名美智, 『「させていただく」の語用論 人はなぜ使いたくなるのか』, ひつじ書房, 2021

国語力研究所, 『国語力検定テキスト』分野別問題集「読む力」, Z会, 2009

4. Web サイト・Web ページ

「やられる」は正しい敬語? 入手先 〈<https://oshiete.goo.ne.jp/qa/7385057.html>〉（2012-03-26）

文化庁 HP > 政策について > 国語施策・日本語教育 > 国語施策 > 敬語おもしろ相談室 > 第二話「敬語の基本」
> 第二話「敬語の基本」解説 > “【3】 謙譲語Ⅱ（丁重語）（「参る・申す」型）”

入手先 〈https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/keigo/chapter2/detail.html〉

NHK 放送文化研究所, “「おります」の使い方”

入手先 〈https://www.nhk.or.jp/bunken/research/kotoba/20160901_1.html〉（公開日 2016-09-01）

“2022 若者流行語”

入手先 〈https://weknowledge.jp/column/trend/post_4292〉（公開日 2022. 06. 13, 最終更新日 2022-09-15）

“クイズキャッスル百科事典【若者言葉一覧 94 選】令和・平成の最新の新語”

入手先 〈<https://jp.quizcastle.com/dictionary/zp5kq5zkgr>〉（公開日 2022-09-28, 最終更新日 2023-01-19）

“気になる? 気にならない? 文化庁が新しいことばの使い方を調査”

入手先 〈<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20230929/k10014210671000.html>〉（2023-9-23）

“世界の言語ランキング（公用語からみた人口）”

入手先 〈<https://japan.wipgroup.com/media/language-population>〉（2022-7-31）

“世界の言語ランキング（インターネット上の言語使用人口）”

入手先 〈<https://japan.wipgroup.com/media/language-population>〉（2020-3-31）

“世界でもっとも影響力のある言語ランキング TOP10”

入手先 〈<https://japan.wipgroup.com/media/language-ranking>〉（2016）

5. 新聞 (Web ニュース)

“世の中「させていただく」だらけ 敬意のインフレをどうとらえるべきなのか”, NEWS ポストセブン, ヤフー記事 (記事公開日 2021-3-28)

鄭孝年俊 (取材・文), “日本語は乱れているのか? 「わかりみ」「とりま」「りょ」…若者言葉は“元気言語”の証拠”, ENCOUNT, ヤフー記事 (記事公開日 2023-01-27)